

緩和ケア勉強会を開催しました



平成 25 年 10 月 11 日に、東芝病院 緩和ケア科部長 茅根義和先生より「緩和ケアの実践 ～疼痛緩和ケアから看取りパスまで～」と緩和ケア認定看護師 平川未来先生より「看取りケア ～LCPを導入して～」という特別講義をいただきました。

Liverpool Care Pathy (LCP) は英国において、Dr John Ellersrow を中心に提唱された看取りのケアについてのクリニカルパスであり、英国で広く普及しています。LCP は臨死期にある患者さんと、そのご家族に対して医療者が行うべきケアをチェックリストにより確認していく形式をとっており、表形式のクリニカルパスとは異なり患者さんと家族が安楽に安心して死期を過ごせるために必要なケアを受けられることを目標にしたアウトカム指向のクリニカルパスでした。日本でも看取りのケアの質の向上を目的とし、2004年に翻訳作業を進め、2009年よりLCP日本語版をリリースされました。LCPはがん末期の看取りためだけのパスではなく、がん末期以外の疾患にも適応可能ということでした。東芝病院で、今年の8月にLCPを導入した事例を紹介していただきました。LCPの利点は医師と看護師が同じツールをみながら看取りのケアを行なっていくため、継続したケアができることです。また今後の課題としてシートを改正し記録の簡略化を図り、LCPの事例を増やすことで、ケアの有効性を検討したいとおっしゃっていました。LCPの具体的な導入の過程が示され有効性が理解できるとても興味深いご講義でした。

★ 疼痛評価方法の変更のお知らせ

これまで当院では、疼痛評価の方法としてFRSの5段階評価を使ってきましたが、電子カルテシステム更新にともなって、疼痛評価方法をNRSに統一・変更することとしました。今後は、「疼痛レベル、7 (NRS)」や「疼痛レベルは、7/10」などでの記録をお願いします。

旧

痛みの強さを問く
Faces Pain Scale (FPS)

フェイススケール

A B C D E F

いたくない ほんのすこしいたい もう少しいたい もっといたい とってもいたい いちばんいたい

坂村園子ら：日本小児看護学会誌 2002；11(2)：21-7
Wong, D, Baker C. Pediatr Nurs 1988；14：9-17

新

痛みの強さを問く
Numerical Rating Scale (NRS)

■ 症状の程度を数値化して問く (NRS)

症状が全くないときを0、これ以上ひどい症状が考えられないときを10とすると、今日の(症状の)強さはどれくらいになりますか？

全くなかった ← 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 → これ以上考えられないほどひどかった

痛み

緩和ケアの申し込み・お問合せは緩和ケアリンクナースまたはがん診療支援室へ (内線：2118)

